



補習校だより

平成28年度 第14号

平成28年8月13日発行

マイアミ補習校

校長 實藤 哲夫

事務（携帯） 305-505-6493

校長（携帯） 917-521-5768

ホームページ miamihoshuko.org

E-mail miamihoshuko@hotmail.co.jp

どんなに暑くてもやっぱり外で！

熱い日差しが照りつけるマイアミの夏ですが、子ども達は元氣そのものです。身体を動かしたくてたまらないらしく、ちょっとした休み時間でも外で遊び回っています。先週も4校時と5校時の間、5分しかない休み時間に、校庭へ飛び出していく子ども達を見かけました。あっという間に外へ飛び出し、ボール遊びをしています。“補習校での過ごし方”では“休み時間はトイシ、次の時間の準備”としているのですが、今年の目標に「外遊びを奨励し身体の発達を図る」ことを挙げていますし、複雑です。



子どもの第一言語は現地語ですが、日本語も…

月刊“海外子女教育”7月号に、「子どもの第一言語は現地語ですが、日本語も追いつかせたいと思っています。どうしたらよいのでしょうか。」という問いに答える形で、元ロンドン補習授業校長の江口俊昭氏が執筆された記事が掲載されています。以下、抜粋しながら内容を紹介します。

○本校のような補習校に通い、教科書で子どもの学齢に応じた国語力を付けさせようとするなら、

・まず教科書の文章を「スラスラと読むこと」を最重要課題として取り組む。

①文中の読みにくい漢字に仮名をふってでも徹底して練習する。

②意味の分からない語句については意味を教えて音読の練習時間を十分に確保する。

○子ども達の苦手な“漢字学習”については、

・「身につく漢字」とするために、人に伝える事柄を頭の中で整理しながら「文字で書き表す」

①日記、感想文、レシピ、手紙、気に入った詩や文章の視写など機会や材料をたくさんとらせる。

②基本的な形である敬体（「です」「ます」体）で書く。

③作文の基本指導「～こと」の組み合わせで文を作り、主語・述語形がしっかりとした文型で書く。

ように指導していくことが大切だと述べられています。

そして、これらのために一番大切なこととして、

○親のサポートは、必須

・海外で暮らす子どもたちにとって身近でいちばん日本語がわかっているのは、親です。学習の中心は家庭で、補習授業校は「日ごろの家庭学習の成果を確認する場」と考えてください。

・親のサポートによる家庭での子どもの粘り強い勉強が「追いつく」鍵です。

と締めくくられています。同感するところがいっぱいです。ご一読なさいませんか。